

グリーンポット 貯水式緑化ブロック



丸高コンクリート工業株式会社

URL <https://www.marucon.co.jp/>

本社 〒915-0057 福井県越前市矢船町1号6番地 tel. 0778(24)1234 fax. 0778(24)4050
三重事業所 〒514-2106 三重県津市美里町足坂116番地 tel. 059(279)3355 fax. 059(279)2195

230520	本	社	三
	内	外	重
	●		



丸高コンクリート工業株式会社

あらゆる環境にマッチする貯水式緑化ブロックです。
グリーンポットに、好きな植物を植えることにより、
一年中花や緑を楽しむ事が出来ます。



グリーンポット 5つの特長

1. 根腐れ問題をクリア

グリーンポットの形状は従来の緑化ブロックとは異なり、同時に根腐れ問題をクリアした画期的な工法です。

2. 風景にとけこむデザイン

グリーンポットは、高く積んでも圧迫感のない形状で、風景にとけこむデザインが可能です。

3. 施工が簡単、施工が早い

ブロックを並べて補正するだけです。熟練工でなくても、簡単に短期間で施工できます。

4. 優れた経済性

商品そのものの経済性に加えて、現場打ちコンクリートが少なく、施工も早いため、低コストで施工できます。

5. 信頼の強度

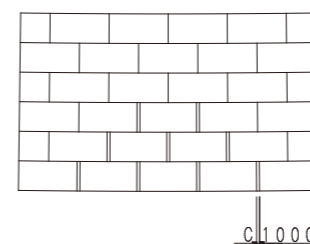
ずれ止めにより壁体を一体化し、なめらかな仕上げと確かな強度を確保します。



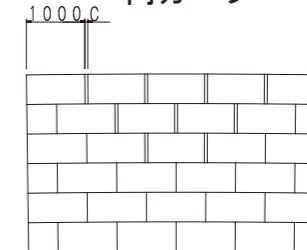
※グリーンポットは、全て受注生産になります。

カーブ施工

外カーブ



内カーブ

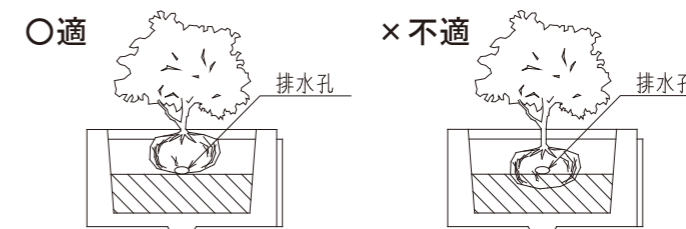


外カーブの場合は、天端部で目的間隔が無くなるように、法尻部の目的間隔を調整しますが、施工に際しては、誤差を考慮して、更に5mm程度の余裕をとってください。

植栽工事の際の留意点

植物の植えつけについて

- グリーンポットの背面には上端から205mm下がった部分に排水孔があり、この排水孔より下には水が溜まります。
- 植物の植えつけに際しては、その根鉢が左図のように水につからないように浅めに植え付ける必要があります。
- 右図のように深めに植えて、根鉢が水につかった状態になると根腐れが発生し、植物が枯れることがありますので十分注意してください。



植えつけ後の給水について

- 植栽が終了した後は速やかに給水してください。給水はグリーンポットの排水孔まで水が溜まるように十分に行ってください。

土壌や植物の選択に関して

- 弊社が入会している無灌水緑化製品技術協会には土壌や植栽全般についてのコンサルティングも加盟しており、適切な対応ができるよう体制を整えております。



保管・取扱いに関する注意事項

- 製品本来の目的・仕様以外でご使用になると危険ですので十分注意してください。
- 作業時には関係者以外の方が現場に立ち入らないように十分注意してください。
- リフト及びクレーンでの製品の移動時は荷崩れしないよう、静かに移動してください。
- 施工器具(吊りワイヤー、金具等)は使用前に十分に点検を行ってください。
- 施工器具の製品への取り付けは確実に行ってください。
- 重量物ですので、据え付け吊り込み中は、製品の下に入らないでください。
- 現場での作業時には、適切な保護具(ヘルメット、手袋、安全靴)をご使用ください。

カタログご利用にあたってのお願い

- このカタログに掲載の製品は、令和5年5月現在のものです。
- このカタログは、当社取り扱い製品の主要事項を掲載したものです。詳しい説明、使用図面等さらに詳しい資料を必要とされる場合には、担当者までお申し付けください。
- 掲載製品の中で、一部取り扱いできない地区・地域があります。
- 掲載製品の規格寸法につきましては、成型寸法となっておりますので表面加工により実寸法とは異なる場合があります。
- 単体図・展開図・断面図は参考例ですので、ご使用にあたっては設置場所、設置条件を考慮してください。
- 製品質量は参考値のため、仕様材料(セメント・骨材等)により、若干の変動があります。
- カタログ以外の製品、および特注品についても、設計・製作いたします。担当者までお申し付けください。
- 掲載製品の色につきましては、印刷の関係上、実物とは多少異なる場合があります。

数量表

10㎡当り

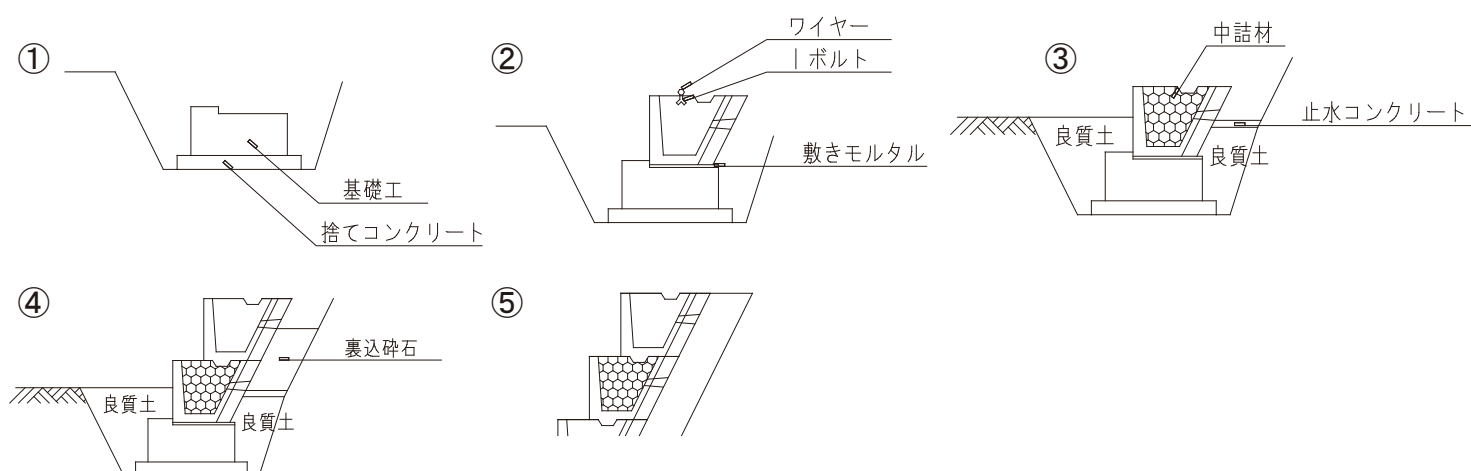
名称	形状寸法	全数量	単位	備考
	規格			
グリーンポット	500×990×710/460	20.0	個	参考重量 320kg
中詰材		1.96	m ³	
中詰	バックフォー運転	0.2	時間	
胴込コンクリート		0.256	m ³	
排水パイプ	φ50	2.0	本	

※1. 鉄筋(D13)並びに裏込コンクリートを必要とする場合は別途計上の事。

※2. ブロック個数は法長方向に対しての面積とは異なります。

施工要領

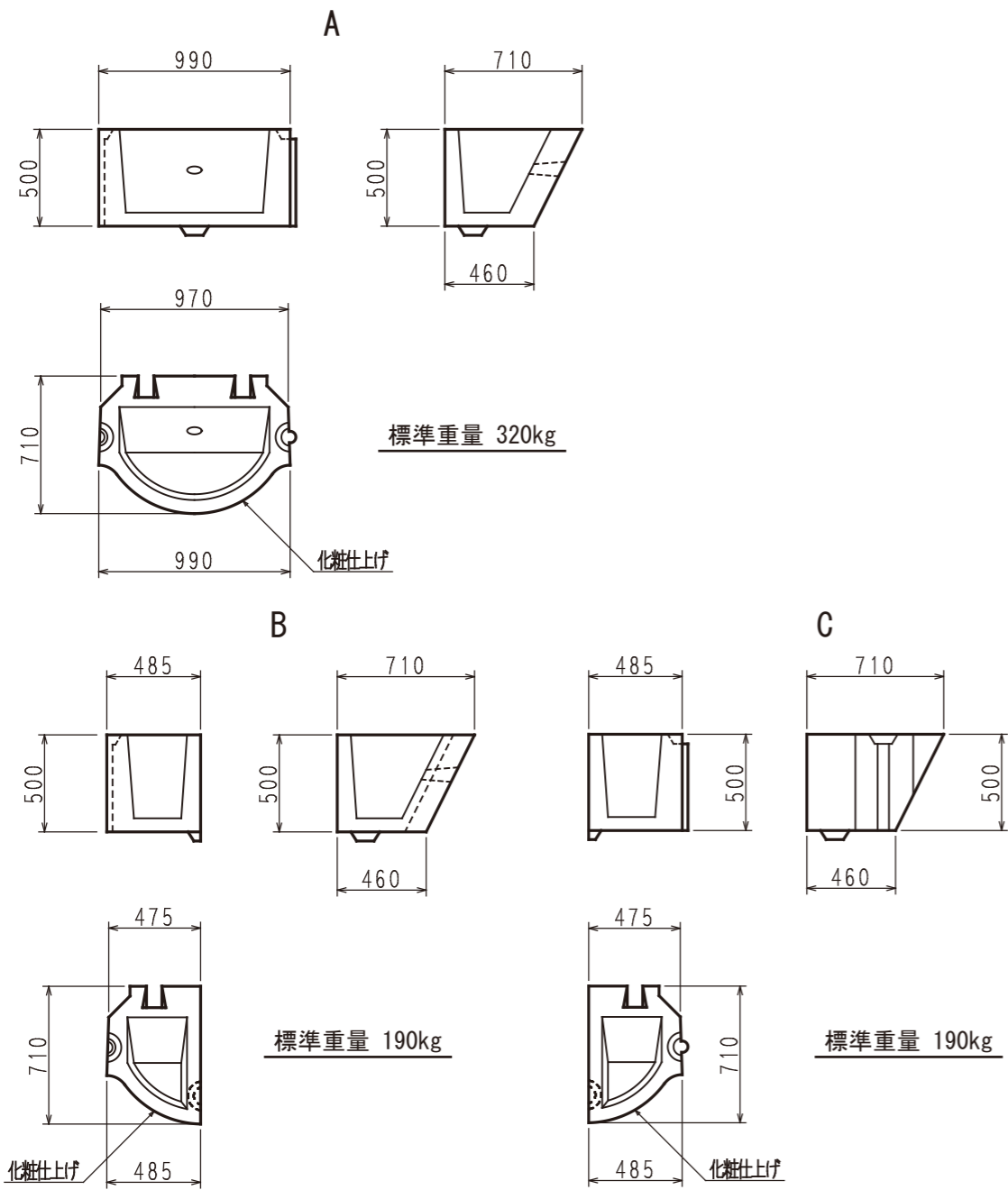
1. 基所定の基礎材を設け、十分転圧します。鉄筋を所定の位置に勾配をあわせてセット、基礎を設けます。基礎寸法は計画高により設計例表を参照して下さい。
2. 下部に凸のない最下段用ブロックを使用します。ブロック天端両サイドのインサートにIボルト(M20~44)を取り付け、ブロックをつり上げ、敷モルタル(1:3)で調整しながら設置します。
3. 1段目の配列終了後、裏込コンクリートを排水溝下部位まで打設します。良質土は、2~3層に分けて締め固めます(1層当たりの仕上がり厚さ30cm以下)。止水コンクリート(厚さ5.0以上)を裏込め材の下に設け、中詰材を充填します。
4. 2段目ブロックは嵌合突起を凹溝へかみ合わせながら配列し、排水パイプを設け同様の手順で組積します。ブロックを所定の位置にセットすると、上下の凹凸でかみ合い簡単に設置でき、計画壁面勾配を維持し、自立します。
5. 天端処理は計画高を確認の上、図のようにコンクリートを打設し、擁壁の構築を終了します。



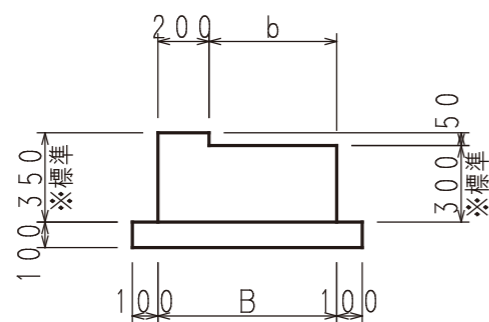
施工写真



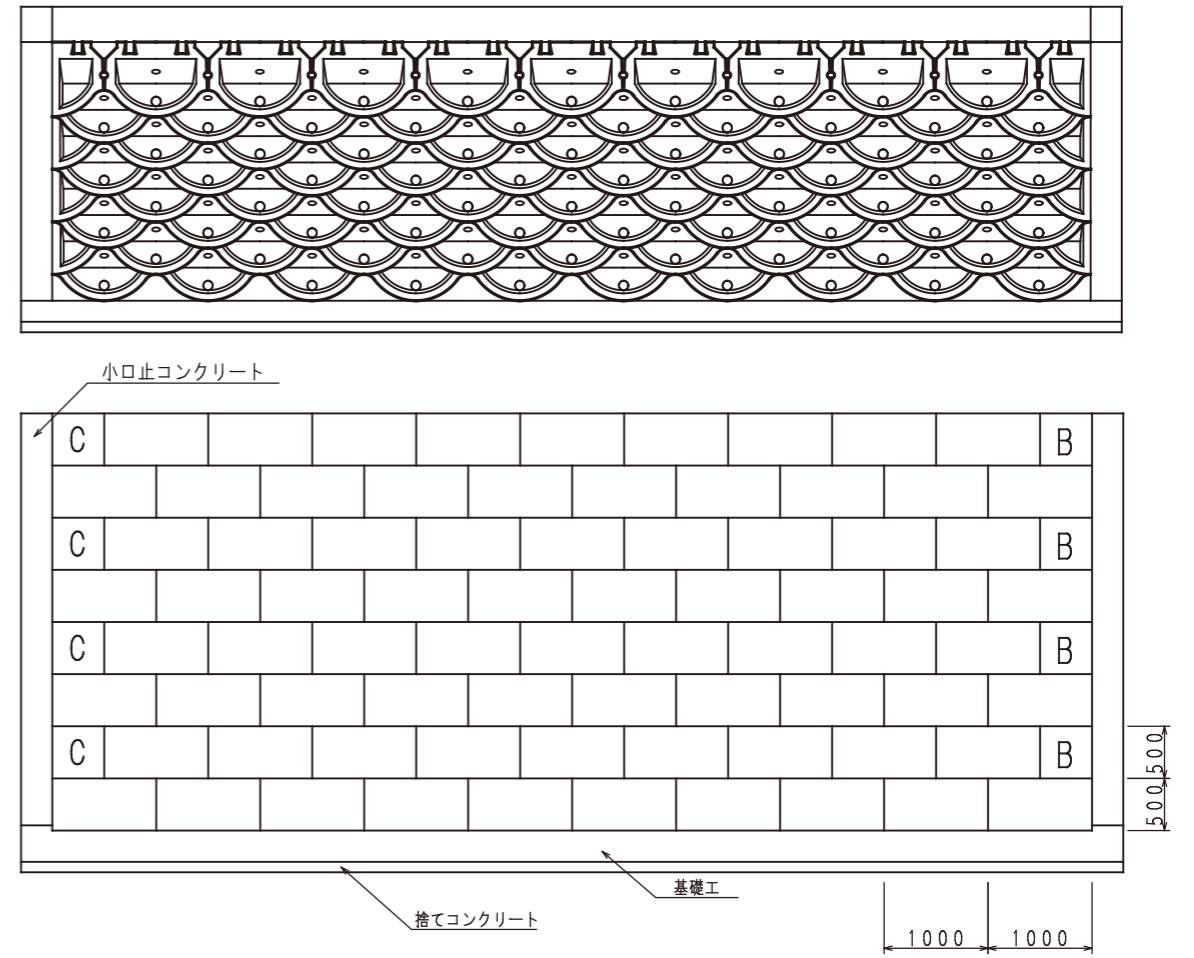
グリーンポット



基礎工標準図



標準平面図



標準断面図

